

コーポレート・ガバナンス

▶コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

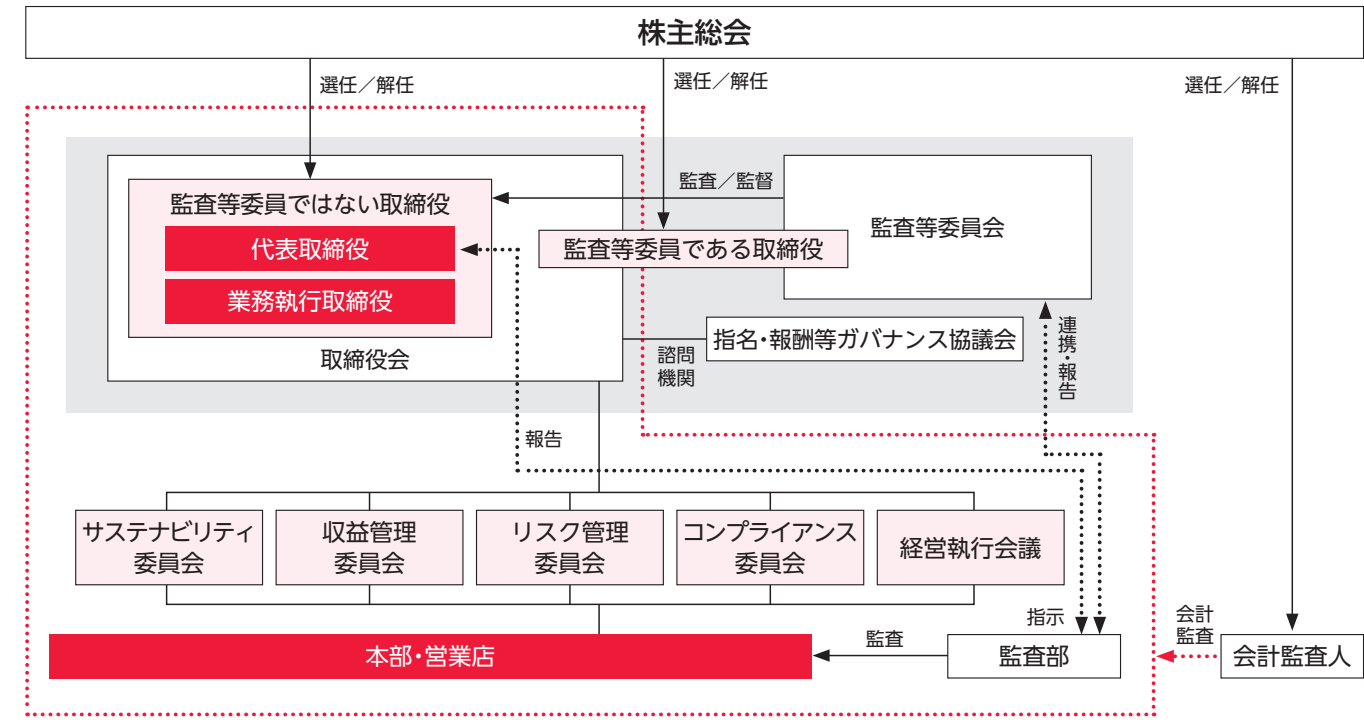
当行は、取締役会、監査等委員会制度を軸として「サステナビリティ委員会」「収益管理委員会」「リスク管理委員会」「コンプライアンス委員会」等を有効活用し、組織横断的な事項に迅速に対応することで、コーポレート・ガバナンスの実効性確保につとめています。

▶コーポレート・ガバナンス体制の概要

当行は、監査等委員会設置会社を採用し、監査等委員である取締役への取締役会における議決権の付与を通じて、取締役の職務執行に対する監査・監督機能の強化を図っています。また、ガバナンス態勢の客観性及び透明性向上を目的に、委員の過半数が独立社外取締役で構成される「指名・報酬等ガバナンス協議会」を設置しています。

更に、執行役員制度を導入しており、取締役会で選任された執行役員が業務執行を担当し、業務執行に係る重要な事項については、常務執行役員以上をメンバーとする「経営執行会議」及び組織横断的な事項に迅速に対応するために設置している「サステナビリティ委員会」「収益管理委員会」「リスク管理委員会」「コンプライアンス委員会」等において協議・決定する体制としています。

●コーポレート・ガバナンス体制図



●取締役会

取締役会は、取締役（監査等委員である取締役を除く）8名、監査等委員である取締役7名（うち社外取締役5名）で構成されています。取締役の選任にあたっては、事業環境及び経営戦略等をもとに当行が期待する専門性・スキルに基づき選定し、当行グループの持続的な発展に資するスキルバランスが取締役会全体で保持されるよう配慮しています。また、その構成について、ジェンダー、国際性、職歴及び年齢等の多様性に留意することとしています。原則として毎月1回開催し、法令または定款で定められた事項のほか、経営に関する重要事項について決議するとともに、取締役の業務執行を監督しています。

2023年度開催回数	12回	平均出席率	100%
------------	-----	-------	------

<2023年度の主な審議事項>

- 取締役会の実効性評価結果の概要及びその対応
- 配当方針や自己株式取得など株主還元の見直し
- 投資専門子会社の設立
- 地域活性化を目的とした寄付の実施
- コンプライアンスプログラムの策定
- 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取組状況
- DX戦略の策定
- 政策投資株式の保有合理性に関する検証結果

等

●取締役会の実効性評価

当行では毎年度、取締役全員を対象にアンケートを実施し、その集計結果の分析に基づいて取締役会の実効性を評価しています。2023年度のアンケートは、取締役会の構成や運営、経営戦略への関与、取締役の選解任・報酬、イノベーションへの対応、取締役会がその役割・責務を果たすうえで重要と考えられる事項について実施しました。取締役会は、評価により洗い出された課題の改善に取り組むことで、取締役会の実効性の向上につとめています。

2022年度の評価結果		2023年度の実効性評価	
課題	① 長期ビジョン実現に向けて策定した新中期経営計画の実効性ある進捗管理	施策	●取締役会では計画の進捗が報告され、課題への対応策等を議論 ●DX戦略実現に向け、2024年4月に「デジタルイノベーション部」新設を決定 ●取締役会以外の会議体を増やし、自由闊達に議論できる場を創出
	② サステナビリティ経営の実現に向け、サステナビリティ関連指標を含む経営指標を活用した議論		●株価向上、ROE等改善に向けた議論を実施 ●役員報酬体系の一部を、サステナビリティ関連指標の達成状況を考慮する内容に改定
	③ 人的資本経営を意識した取組を進め、女性・若手など多様な経営人材層の育成に関与		●新頭取選定にあたり、指名・報酬等ガバナンス協議会において計画的に議論を実施 ●女性や若手の経営職・管理職を積極的に登用
		評価結果	
		保有スキルや年代、ジェンダー等の多様性を踏まえた取締役で構成され、開催頻度、審議時間、議案数ともに適切であると評価されている。また、コンプライアンス、取締役の選解任や報酬体系、後継者計画等のガバナンスについても、客観性・透明性の進展等により着実な改善が進められており、高い実効性を確保している。	

2023年度に認識された課題

- ① 長期ビジョン、中期経営計画の目標達成に向けた実効性ある進捗管理への関与
- ② 株価やサステナビリティ関連指標などの経営指標を活用した議論
- ③ 女性や若手など多様な経営人材層の育成に向けた計画的な取組み

●取締役会のスキル・マトリックス

社内取締役（業務執行取締役及び監査等委員）

氏名	期待する分野						
	経営管理／サステナビリティ	リスクマネジメント	ヒューマンリソース	IT/DX戦略	市場運用	営業	融資審査
綾田 裕次郎	●	●			●	●	●
森 匡史	●	●	●	●		●	●
大山 揮一郎	●	●				●	
豊嶋 正和	●	●		●			●
黒川 裕之					●	●	●
多田 和仁	●				●	●	
菅 弘						●	
岩根 正明	●	●			●	●	
組橋 和浩	●	●					
佐久間 達也	●	●		●		●	

社外取締役（監査等委員）

氏名	期待する分野					
	企業経営／サステナビリティ	金融	財務・会計	法務	地方創生	
山田 泰子 独立役員			●		●	
藤本 智子 独立役員				●		
小西 範幸 独立役員	●		●		●	
丸森 康史 独立役員	●	●	●			
鬼頭 誠司 独立役員	●	●		●		

(注) 上記スキル・マトリックスは各取締役が有するすべての専門性と経験を表すものではありません。

各スキルの選定理由

スキル名	選定理由
経営管理／サステナビリティ	事業環境が変化の中で持続的な成長・発展のためには、経営管理・サステナビリティ経営に関する知見・経験が必要であるため。
リスクマネジメント	持続的な企業価値向上のためには、各種リスクに対する適切なリスク管理の知見・経験が必要であるため。
ヒューマンリソース	サステナビリティ経営のためには、人的資源活用に関する知見・経験が必要であるため。
IT/DX戦略	デジタル技術を活用し価値創造を図るためには、ITに関する知見やDXへの理解と推進が必要であるため。
市場運用	地域の金融インフラを担うためには、有価証券運用に関する知見・経験を有し、適正な投資判断が必要であるため。
営業	地域の金融インフラを担うためには、営業活動に関する知見や営業店長の経験が必要であるため。
融資審査	地域の金融インフラを担うためには、企業分析・審査に関する知見・経験を有し、適正な与信判断及び企業支援が必要であるため。

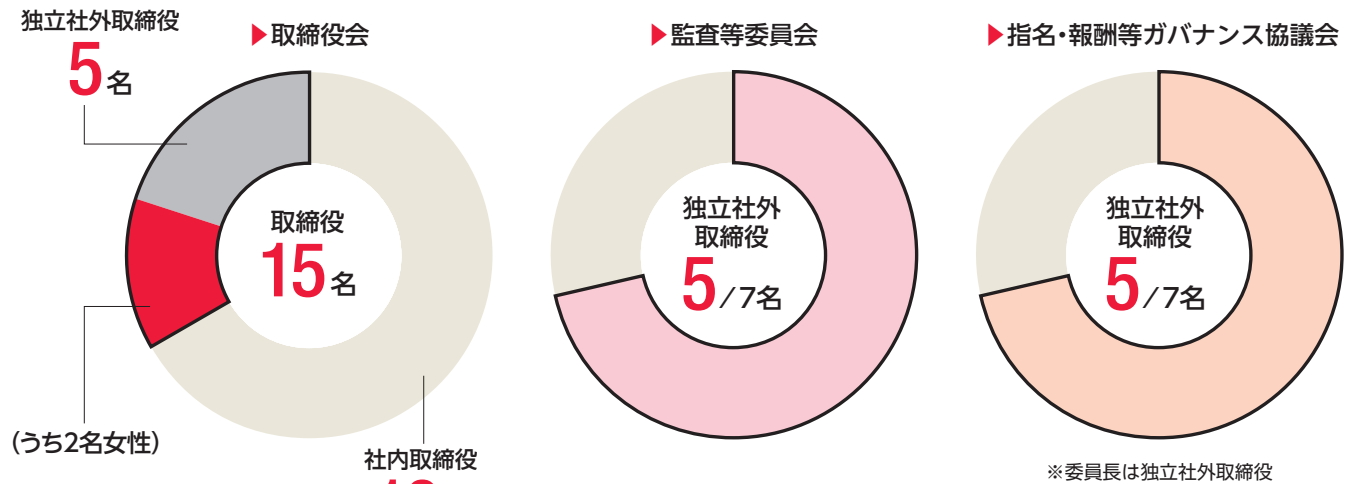
各スキルの選定理由

スキル名	選定理由
企業経営／サステナビリティ	事業環境が変化の中で持続的な成長・発展のためには、経営管理・サステナビリティ経営に関する知見・経験が必要であるため。
金融	金融業界で事業価値拡大に資するためには、業界についての知見・経験が必要であるため。
財務・会計	財務戦略等に対する実効的な監査・監督を行うためには、財務・会計分野における知見・経験が必要であるため。
法務	持続的な企業価値向上のためには、法務知識に基づく適切なリスクマネジメントや人権保護に関する知見・経験が必要であるため。
地方創生	経営理念であるお客さま・地域社会との共存共栄を実現するためには、地方創生に資する知見・経験が必要であるため。

● 社外取締役の選任理由

氏名 (就任年月)	選任理由	出席状況(2023年度)	
		取締役会	監査等委員会
山田 泰子 (2019年6月)	香川県に入庁後、環境・福祉・会計等の部署で要職を歴任し、地方行政における豊富な経験と、地方創生や財務会計等についての専門的知識を有し、人格、見識ともに優れています。	12／12回	13／13回
藤本 智子 (2021年6月)	弁護士としての高い専門性を備えたうえで、香川地方労働審議会委員や高松市環境審議会委員等の公職を歴任してきたことから、法律家としての観点のみならず、行政の現場で培った多様な視点、発想も持ち合わせており、人格、見識ともに優れています。	12／12回	13／13回
小西 範幸 (2022年6月)	学識経験者として会計・監査・ガバナンスや地方創生等についての高い専門的知識を備えたうえで、青山学院大学副学長や国際会計研究学会会長等の要職をつとめ、人格、見識ともに優れています。	12／12回	13／13回
丸森 康史 (2023年6月)	株式会社三菱UFJ銀行及び三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社等の経営者としての豊富な経験と、金融や財務会計、コンサルティング業務等に関する専門的知識に加えて、地方銀行の社外監査役の経験も有し、人格、見識ともに優れています。	9／9回	8／9回
鬼頭 誠司 (2024年6月)	日本生命保険相互会社及びニッセイ情報テクノロジー株式会社等の経営者としての豊富な経験と、金融、法務、コンプライアンス、リスク管理、システム等の豊富な知識を有し、人格、見識ともに優れています。	2024年6月取締役就任	

● 各会議体の構成

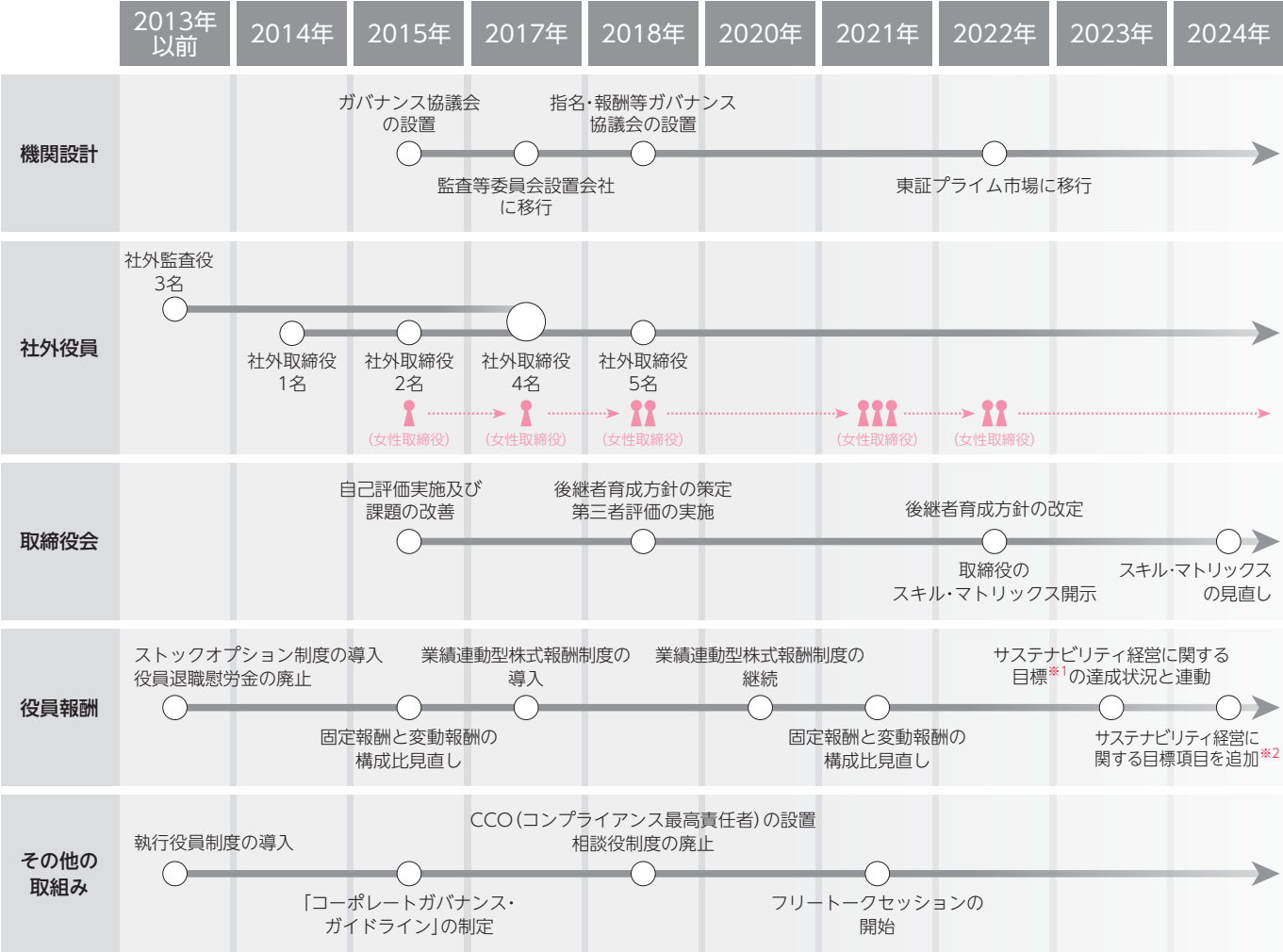


● 監査等委員会

監査等委員会は、監査等委員である取締役7名(うち社外取締役5名)で構成されています。原則として毎月1回開催するほか、必要に応じて随時開催し、取締役の職務の執行を監査・監督しています。

2023年度開催回数	13回	平均出席率	98%
＜2023年度の主な審議事項＞			
● 監査方針・監査計画の策定			
● 監査報告書の作成			
● 監査等委員以外の取締役の選任・報酬に関する意見決定			
● 会計監査人の選任			
● 会計監査人の報酬等に関する同意			
● 定時株主総会への付議議案内容の監査			
等			

▶ ガバナンス強化に向けた取組実績



※1 CO₂排出量削減(E)・女性役席者比率向上(S)・政策保有株式削減(G)
※2 サステナブルファイナンス実行額(E)・エンゲージメントスコア(S)

● 指名・報酬等ガバナンス協議会(任意の委員会)

指名・報酬等ガバナンス協議会は、頭取、監査等委員会委員長及び独立社外取締役5名で構成され、委員長を独立社外取締役としています。原則として年2回以上開催し、取締役会の諮問機関として、取締役候補者の指名及び取締役の解任、代表取締役の指名・解職、監査等委員ではない取締役の報酬等及び、その他ガバナンス及び経営上の重要な事項に関する審議を行い、取締役会はその答申の内容を尊重することとしています。

● フリートークセッションの実施

取締役会等の正式な会議体での議論だけでなく、社外取締役と自由闊達に意見交換を行う場として、2021年からフリートークセッションを実施しています。行内の取締役や執行役員、部長、支店長等が参加し、中長期的な視点で議論を行っています。開催回数も増加しており、今後も充実させていく方針です。

2023年度開催回数	10回	平均出席率	98%
＜2023年度の主な審議事項＞			
● 次期頭取のサクセッションプラン(選定方法等)			
● 役員報酬体系を一部改定し、サステナビリティ経営に関する目標指標(非財務指標)を組み入れ			
● 業績連動型株式報酬制度(BIP信託)の継続及び信託金の追加拠出			
● サクセッションプランに基づく候補者選抜アンケートの結果			
● 2024年度新体制案(新任取締役候補、新任執行役員候補等)			
● 取締役会実効性評価アンケートの実施及び結果概要			
等			

フリートークセッション	2023年度開催回数 10回
＜2023年度の主なテーマ＞	
● 災害発生時における業務継続態勢	
● 人的資本経営の現状等について	
● DX戦略の進捗について	
等	